

~~~~~  
書 評  
~~~~~

時 と 暦

青木信仰 著

本書は近來稀に見る快著であり、天文学を志す人は勿論、一般教養の書としてどなたにも一読をおすすめしたい。

私共の日常生活に密着しすぎているために反って何の考えもなく使っている時間とか時刻とか“こよみ”について、本書では明快に正確に、しかも比較的判り易く説かれており、これを通読することによって洋の東西を問わず私共の先人達のためみない観測努力と思考研究の結実であることがよく呑みこめるようになっていく。時とか“こよみ”の仕組みが、諸学の中でも最も古くからあるものの一つとして数えられている天文学の研究成果に支えられていることにも十分に納得させられる。

はしがきにもあるように、本書は一般の読者を対象としたものであると断ってはあがるが、ただの読物とは一味も二味も異ったものであり、かりに活字のポイントを下げて述べられている部分を飛ばし読みしても、週刊誌でも読む積りで本書に臨んだら恐らく目の玉が引っくり返ってしまうかもしれない。論理と正確さを旨とする天文学に支えられた内容であり、加えて著者自身がその権化と言ってもよい程の理論家であるだけに本書の記述は極めて正確である。反面そのためにいわゆる一般読者(というよりは素人読者)にとっては固苦しい感じを与える恐れありと感ずる部分が随所に現われている。このことを承知の上でこの書を読破すれば、時と暦についての十分な基礎知識を身につけることができ、これから先専門家の話を聞いても何とかついて行けるようになる。

本書内容表現の正確さにはただただ驚嘆するばかりで、私だったらおそらく 10 年の歳月をかけても完成できないであろうと思える程綿密な調査研究がなされている、例えば古い時代の学者の年表にしても十分な考証がなされたあとがあり、記述内容の出典を極めて明確に示してあるのが嬉しい。また調査が不十分である場合にはその旨を明記してあるのは著書の人柄を示すものであり、本書を読んでいると著者と対談でもしているような気分になってしまう。

著者と私とはその専門分野でかなり共通した所があるだけに比較的長いおつき合いがあり、著者の持つ学問的思想や気持のあり方、また著者のユーモア精神も理解している積りであるだけに、つい誉め言葉ばかりになってしまったが、欲を言えばもっと一般読者向けに徹して貰いたかったと思う。例えば第 3 章の 3、グリニヂ天文台創設の部の後半とか、第 5 章では 3 の後半と 4 についてはもう一工夫こらして誰にも親しみ易い表現にするこ

とができなかったかと惜しまれる。

第 5 頁末尾から 6 行目に“学際的研究”という表現があるが、本書の通読をおすすめした知人にこれは何を意味するのかと質問されてびっくりした。金田一京助氏外共著の新明解国語辞典 181 頁に出ている程度の説明を() づきで入れてあればより親切であったと思う。

これは私の好みによるかもしれないが、本書を繙くに当っては、まずははしがきの部、次に目次を読み、次には変則的ではあるが第 270 頁のあとがきに目を通してから序章、第 1 章、……と読み進む方が理解し易いように思う。

ゴキブリが一匹見つければ、彼等の実数はその数十倍であると言われるが、この著書にはこの言伝えがあてはまらない。105 頁末尾から 3~4 行目はヴァイル・デア・シュタットの居酒屋……とあるべきであるのが“居酒屋”になった誤植は全く惜しい。私の見る限りでは誤植はここ一つだけである。居酒屋で飲むワインより居酒屋でたしなむワインの方がずっとうまいし、情緒がある。一つの誤植は万慮の一失というより御愛嬌であると受取めたい。(弓 滋)

~~~~~  
雑 報  
~~~~~

「恒星外層物理研究会」報告

「active な姿を持つ星」というテーマのもとで、今年の 1 月 27 日、28 日、29 日の 3 日間にわたって、上記研究会が東大天文学教室で開かれた。今回が通算 3 回目で、上記研究会のシリーズは本年度で最後となる。

26 講演があり、その内容は多岐にわたっている。Review Talk を順に拾ってゆけば、stellar activity (山崎)、フレア星 (小平)、晩期型星と質量放出 (渡辺)、ミラ型と共生星 (前原)、Star Formation (磯部) (以上、27 日)、Be 星 (小暮)、X 線連星 (柴崎)、Astro B による恒星の観測 (井上)、Chemically Peculiar Stars (定金)、early B 星の pulsation (安藤) (以上、28 日)、激変星の観測 (岡崎)、nova の理論 (藤本) (以上、29 日) となっている。

29 日の午後からは、Astro B による観測について、田中氏による説明、紹介があったのち、恒星観測の将来の方向と題して提言者それぞれの発言があった。しめくくりとして、尾崎氏の恒星の activity を記述する第 3 の parameter としては何が本質的であるかという問を種として、議論が展開され、今後の観測の方向なども考え合わせて、様々な意見が提出された。(李 宇珉)

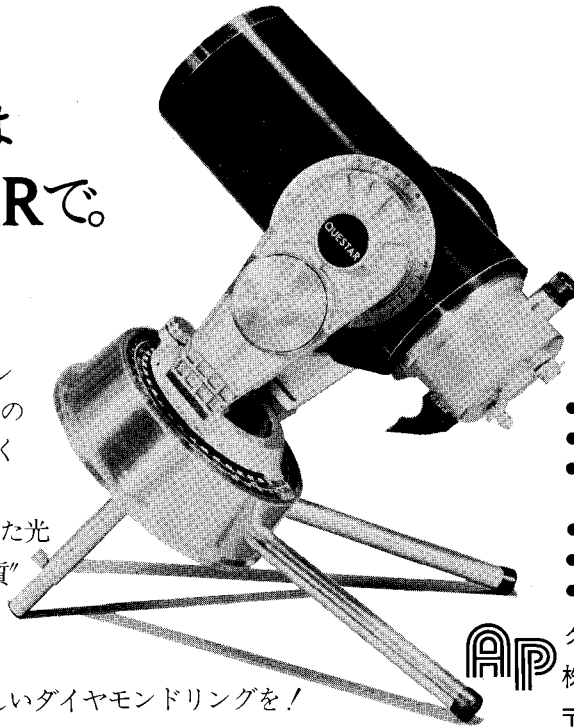
日蝕観測は QUESTARで。

マクスツフ・カセグレン
の最高峰“クエスト”の
真価を体験していただく
チャンスです。

“クエスト”のすぐれた光
学性能は、すべて“画質”
として、はっきり目
に見えます。

“クエスト”で、美しいダイヤモンドリングを!

*クエスト オリジナルカタログご希望の方は、切手800円同封の上、お申込みください。



“クエスト セブン”

- 光学系…カタディオプトリック
- 有効口径……………178mm
- 焦点距離 実視用…2,540mm
カメラ用…2,800mm
- ファインダー…7×、14×内蔵
- カメラ視野……………1°15'
- 分解能……………0.6"



クエスト社 日本総代理店
株式会社 エーピー

〒150 東京都渋谷区渋谷2-3-4
青光ビル4階 ☎(03)407-0047

「宇宙における非線型・非平衡現象とその解析」研究会
上記名の研究会が、科学研究費補助金総合研究(A)
「宇宙における流体現象の数値シミュレーション」(代表
者:池内了)の補助の下に、1月12,13,14の3日間札
幌で開催された。

本研究会で論じられたテーマは、星の形成から宇宙に
おける構造の発生に到る、サイズにして8~9桁の差の
ある現象で、それらを統一的に論ずることは本来不可能
である。しかし、①宇宙現象は、すべて非線型・非平
衡系の動的振舞いであり、それらの系を取り扱う一般的
方法又は、現象に共通する一般の性質を抽出することは、
基礎物理学の観点からも重要である。——それらは、星
間物質の相変化のリミット・サイクル的時間変化と銀河
系における構造の発生、銀河系内の星間エネルギー状態
の2つの安定相とそれらの間の相変化、中性子星や白色
矮星表面での核反応過程の非線型の緩和振動、などのテ
ーマで、論じ始められている。②数値シミュレーション
によって複雑な流体現象を解析すると共に、有効で精
度のよい数値計算法を開発するという、本科研費課題の
テーマに沿った部分の討論も重要である。——それら
は、磁気雲の収縮過程、磁化プラズマの星への吸着、

bipolar molecular flow, 非圧縮, 3次元流体の平衡解,
相対論的重力崩壊, smoothed particle 法による proto-
star の収縮, 銀河ポテンシャル中のガス運動, プラズマ
の慣性閉じ込めなどのテーマとして発表された——とい
う、2つの観点で、天体物理学の全分野及び核融合プラ
ズマグループからの研究者が相互討論することは、意味
のあることであった。

研究の前線が広がるにつれ、逆に、互いのテーマや方
法の共通性に基づいた研究交流は非常に大切であると思
う。同時に、東京や京都から遠く離れた地方での研究会
を心掛けて開くことは、天文学の将来にとっても大切な
ことと思う。(文責:池内 了:北大理)

訂 正

3月号の服部昭氏 御逝去の月日に誤植がありました。
昭和58年1月23日でした。謹んで訂正し御詫び申
上げます。